

子どもと笑顔

表情は大切なコミュニケーション 意識して表情を見せることが大切



先生のご紹介

大坪 修介

大坪子どもクリニック 院長

PROFILE

熊本大学卒。卒業後鹿児島大学小児科入局。小児科・小児神経専門医。医学博士。鹿児島大学医学部臨床教授。一人ひとりを大切に、誠意をもった診療を心がけています。

前回のこの欄で、子どもの目の発達には外遊びが重要で、遠くや近く、左右をみたりする目の訓練、そしてなんとと言っても正確な像を網膜から脳に映し出すことが脳の発達を促すことを述べてきました。そしてその時期は遅くとも6歳までであり、3歳児健診での目の検査が大切です。

同様に乳幼児期の顔の認識や表情の理解力もただ年齢と共に自然と成長するというわけではありません。



同じ顔かな? (Pascalis et al)

生まれたばかりの赤ちゃんの脳はとても柔軟で、数か月でいろいろな顔を一旦見分けることができるといわれています。6ヶ月の赤ちゃんは私には区別のつかないお猿さんの顔を的確に見分けます。ところが、成長するにつれて見慣れた環境に適応するあまり、見慣れない

ものに対しては区別する能力を失っていきます。日本人がRとLを聞き分ける能力が無くなっていくのと同じです。「知覚的狭小化」。

スクのある方がなじみのある顔で、認識する能力は残り、マスクを取った本当の顔の方を認識する能力が鈍くなるのではないかと心配です。赤ちゃんにはマスクをとって育児をしてください。子どもはいろいろな人の顔やその動きを見て表情を学びます。笑顔で褒められ、怒った顔で叱られるのです。そのとき重要なのが、目・鼻・口の3点です。すべてが揃って、赤ちゃんは「これは顔だ」と理解できるようになります。その後表情の理解能力は2歳〜4歳まで急速に発達して、4歳〜5歳の相手の気持ちを理解する能力へとつながっていきます。鼻、口を失ったマスク姿が常態の育児で、コミュニケーションの土台となる顔を勘違いしたまま育つ可能性があつて、その勘違いはずっと続くのではないかと、他の成長に悪影響を及ぼすのではないかと心配です。幼児期でも特に家庭内ではマスクをとった方がよいと思えます。

一方、ことばで表現できない乳幼児の表情は大人にとって心の動きを知る最大のヒントです。マスクをしている子どもに絵本を読んだりあげるとき、子どもの喜怒哀楽が上手につかめずとまどっているという話を保育士さんから聞きました。

どんな感情を表しているか、
分かりますか?
(答えは15Pを見てね!)



恐怖・怒り・驚き・悲しみ・嫌悪はそれぞれどでしょう。
[https://slidesplayer.net/slide/11529752 より改変]

コロナが始まり、私たちがマスクを日常的に取り入れ始めてから2年以上が経ちました。その頃に生まれた子ども達は外で見かける大人達やお友達がマスクをしているのが当たり前の世界です。そのような世界で育つ子ども達はまた環境に適応した能力、例えば目の

した。また自然な表情だけでなく、意図的に表情を作ることはこの時期まだ難しく、マスクのない顔でさえ、子どもの悲しみや怒りをその6割前後しか大人は理解出来ないとされています。マスクをすることにより、表情を理解する能力が育つ時期に間違つたメッセージを送ってしまった、私達もマスク姿の子どもの表情が読めず間違つた育児をしてしまつたということだと思えます。

みで相手の喜怒哀楽を感じ取る能力が私たちよりも飛躍的に伸びているかもしれませんし、ボディランゲージの達人になっていくかもしれません。子ども達がたくましく育つてくれることを願います。子どもたちの成長は日々刻々と進んで待つたなしです。特に家庭内ではマスクを外し、積極的に表情や気持ちを伝え合う機会を作り、心の距離を近づけていくことが重要です。



https://www.otsubo.org

大坪子どもクリニック 日・祝日 休診

時	朝	昼	夕	〒890-0034
月	○	○	○	鹿児島市田上2-15-11
火	○	健・予	○	TEL.099-286-6121
水	○	健・予	○	FAX.099-286-6127
木	○	○	○	※日曜・祝日休診
金	○	健・予	○	
土	○	健・予	○	

